新品種メロンの食味を探る

つがる市メロン生産者連絡会（長谷川豊治会長）は7月23日、松の館で将来の「つがるメロン」の顔となる新品種を選定する検討会を行いました。

検討会には福島市長はじめ、農協、生産組合、西北地域県民局、流通業界関係者ら約40人が出席。

試食に出された新品種は、果肉が緑色のMTT-30と果肉が赤いEM-627の2種類。ユウカメロンを基準とし、北海道の夕張キングも参考品種として添えられ、外観や食味など5段階で評価しました。

出席者からはMTT-30を評価する声が多く、試食後は新品種についての意見交換も行われました。

新品種のメロンを試食し評価する出席者

トマト加工4品目がブランド認定

ブランド認定委員会が認定した加工品と農産物生産農家に7月24日、福島市長が「つがるブランド認定書」の交付を行いました。

加工品が認定されるのは今回が初めてで、稲垣Vicの会が製造するトマトのジュース、ゼリー、ジャムとつがる地球村が販売するトマトアイスの4品目が認定されました。

また、減農薬、有機肥料の使用率など一定の栽培基準を満たした511人の農家もブランド農産物生産者として認定。ブランド認定を受けた加工品や生産者らの農産物には、イメージキャラクター「つがーるちゃん」のシールが添付され、消費者に安全・安心な商品として販売することができます。

福島市長から認定書が交付された製造・生産者の皆さん

食生活の大切さ考える「男性の料理教室」

市内で採れた野菜を使いながら食生活を考えようと市食育推進応援隊（原田ひとみ代表）は7月24日、市役所保健センターで男性の料理教室を行いました。

教室には男性14人が参加し、班毎に分かれて「鮭の混ぜご飯」「さばの味噌煮」「焼きキノコと水菜のあえもの」の3品に挑戦。応援隊や保健師などの指導を受けながら、手際よく野菜を刻み、魚を煮付けるなど和気あいあいとした雰囲気の中で調理を楽しんでいました。

完成した料理は全員で試食し、参加者からは「薄味だがおいしい。これで丁度いいのだろう」など健康管理に理解を深めていました。

レシピを見ながら「さばの味噌煮」に挑戦する参加者たち

戦没者の冥福祈り 追悼平和祈念式

戦死された方々の霊を慰め遺族の辛労をねぎらうつがる市戦没者追悼平和祈念式が8月8日、松の館で行われました。

式典には約180人が参列し戦没者の御霊に黙とうを捧げ、福島市長が「戦争という悲惨な史実を語り継ぎ、真の平和の実現に努めて参ります」とあいさつ。また、参列者を代表して工藤光則遺族会会長が「戦争がもたらした傷は深く遺族の歩んできた道は、辛く険しい毎日でした。戦争の悲惨さを忘れることなく後世に伝え、恒久平和を祈っていきたい」と追悼の言葉を述べました。参列者は、標柱が飾られた祭壇に白い菊の花を献花し、蕾の会のコーラスに合わせて追悼の歌を合唱しました。

戦没者の御霊に追悼の言葉を述べる工藤会長

白い菊の花を献花する参列者

県民体育大会（市の部） 相撲4連覇達成

第63回市町村対抗県民体育大会が8月3日、十和田市などを主会場に開催され、市の部の相撲競技でつがる市が4連覇を達成し、福島市長へ喜びの報告に訪れました。

監督を務めた菊地弘樹さんは「4連覇出来たのは、選手が自己管理を徹底し、勝利への意気込みと団結力が強かった」と話していました。

福島市長は「来年も優勝して5連覇できるよう日々の練習に励んでください」と激励の言葉を述べていました。

【参加選手】
（先鋒）野呂祐太朗　（次鋒）花田裕也
（中堅）伊藤　豊　（副将）黒滝有志
（大将）木村健太郎

福島市長に4連覇の報告をする選手

外国語指導助手（ALT）～お別れと出会い～

ウォーフリイ・アリソン
Woolfrey Alyson

3年間、ALTとして仕事をしていろいろなことを学ばさせていただきました。つがる市の小・中学生の皆さんは一生懸命英語を勉強していました。学校を訪問して一緒に学ぶことがとても楽しかったです。これからはアメリカに帰って言語学者を目指しますが、日本で学んだことを生かしてがんばります。本当にお世話になりました。

3年間ありがとう

ペイン・ミッシェル・マリー
Payne Michelle Marie

初めまして皆様。私はミッシェル・ペインと申します。23歳です。アメリカのテキサスで生まれました。私はテキサス大学で日本語と生物学を勉強しました。日本の文化と歴史はとても面白いと思います。

私の趣味は本を読んだり、料理をしたり、編み物をすることです。これからよろしくお願いします。

よろしくお願いします

自慢の津軽凧が夏空を彩る

全国凧揚げ大会

第8回青森県つがる市かしわ全国凧揚げ大会が8月3日、稲垣町の岩木川河川公園で行われました。同大会は青森県凧の会連合会（横山勇一会長）が主催し、県内から20団体、県外から10団体、約200人が参加。7回大会までは毎年2月、旧柏村で開催していましたが、参加団体から「暖かい季節に開催してほしい」との要望があり、今年から夏の大会になりました。当日は小雨交じりの天候でしたが風に恵まれ、自慢の津軽凧が大空を彩っていました。

じゃがいも掘りで食育学ぼう

しげた地域子育て支援センター

しげた地域子育て支援センターが8月4日、しげた保育園児ら20人を支援センターが管理している畑に招待し、じゃがいも掘りを体験させながら交流を深めました。

支援センターでは、子ども達に収穫を通して食育を広め、野菜の好き嫌いを無くそうと開催。子ども達は競争しながら土の中のじゃがいもを掘り出し、袋が破けるくらいまで詰め込んで収穫の喜びを味わっていました。

柴田保育所民営化に伴う説明会

公立保育所の統廃合民営化等についての保護者説明会が8月6日、柴田保育所で行われ保護者ら約17人が出席しました。

市担当職員からは、民営化についてのいままでの経緯が説明され、保護者からは「民営化になればサービス面が低下しないか」「制服はどうなるのか」など様々な意見が出ていました。

市では今後、引受法人を公募・選定し平成21年4月からの民営化を予定しています。

生きる大切さ学ぶ福祉体験

社会福祉協議会

社会福祉施設で働く人達に触れ実習を通して学ぶ中高校生等ワークキャンプが8月6日から8日、市社会福祉協議会車力支所を主会場に行われました。

ワークキャンプには市内の中高校生ら32人が参加し、市内4ヵ所、中泊町と五所川原市の各1ヵ所の施設で実施。デイサービスセンター「あーすとぴあ」（森田町）では、生徒達が入浴介助や入浴後の高齢者の髪にドライヤーをかけるなどの現場実習を体験していました。

特産品で食育講座

親子料理教室

地産地消と地元の食材に関心を持ってもらうため親子料理教室・メロン収穫体験が8月7日、松の館で行われ13組の親子が料理教室を体験しました。

料理教室の献立は、地場産の米を使ったおにぎり、手作りソーセージ、ごぼうとコーンのサラダ、野菜スープの4品で、ごぼうのささがきやタマネギのみじん切りに挑戦していました。午後には市内のメロン農家の畑でメロンの収穫を体験し、楽しい1日を過ごしていました。

サッカーの競技力向上を目指す

親善大会

第4回つがる市長杯西北五中学生親善サッカー大会が7月31日から8月8日の期間、柏サッカー場で行われ西北五管内の中学校9校が参加しました。

同大会は、サッカーの競技力向上と交流を目的に4年前から開催されています。

白熱した試合が行われた結果、柏中学校が木造中学校を得失点差で勝ち、優勝を果たしました。

稲わらでエコフィッシュ製作

環境交流会

つがる夢庭志仙会（荒谷政志代表）は8月10日、アジアからの留学生と児童・生徒らが環境について学ぶ交流会を夢庭広場（柏下古川）で行いました。

交流会には約60人が参加し、稲わらを束ねて縛った筒状の中にもみ殻の炭を詰めたエコフィッシュを製作しました。参加者は完成したエコフィッシュで近くの福島堰を浄化するため木柱に係留し、環境を守る大切さなどを体験していました。

手話で交流楽しいな

手話サークルカッコウ

聴覚障害者への理解を深め心のコミュニケーション法を学習しようと手話サークルカッコウが8月10日、松の館で1日手話教室を行いました。

講師には、西北五ろうあ協会の大村とみさんと成田明子さんを招き、参加者はお互いの唇の動きを読み取って会話する口話法、50音を指の形で表す指文字、手話の動作などを学習。

また午後は、ビデオ鑑賞と手話を使ったゲームなどをしながら楽しんでいました。

2年連続12度目の優勝

稲垣少年クラブ男子

7月5日に開催された第28回全日本バレーボール小学生大会県大会で2年連続12度目の優勝を果たした稲垣少年クラブ男子が8月11日、福島市長に喜びの報告をしました。

同クラブは稲垣西小、向陽小、柏小の児童らで構成され、バレーボールを通じての人材交流も行っています。福島市長は「監督の言うことを守っていれば絶対に勝てるのでがんばってください」と選手を激励しました。同クラブは8月12日から15日に東京都で開催された全国大会に出場しています。

東北中学校相撲大会団体3位

森田中相撲部

8月7日に福島県で開催された第29回東北中学校相撲大会で団体の部3位となった森田中学校相撲部が同月18日、福島市長に喜びの報告をしました。同校相撲部は部員が3人で大会に出場するにはぎりぎりの人数。各自が体調管理を徹底し、怪我も許されない厳しい環境の中で手にした勝利です。福島市長は「良い成績を残せたのは、家族や支えてくれた人がいたからこそです。今後の健闘を期待しています。」と激励しました。